

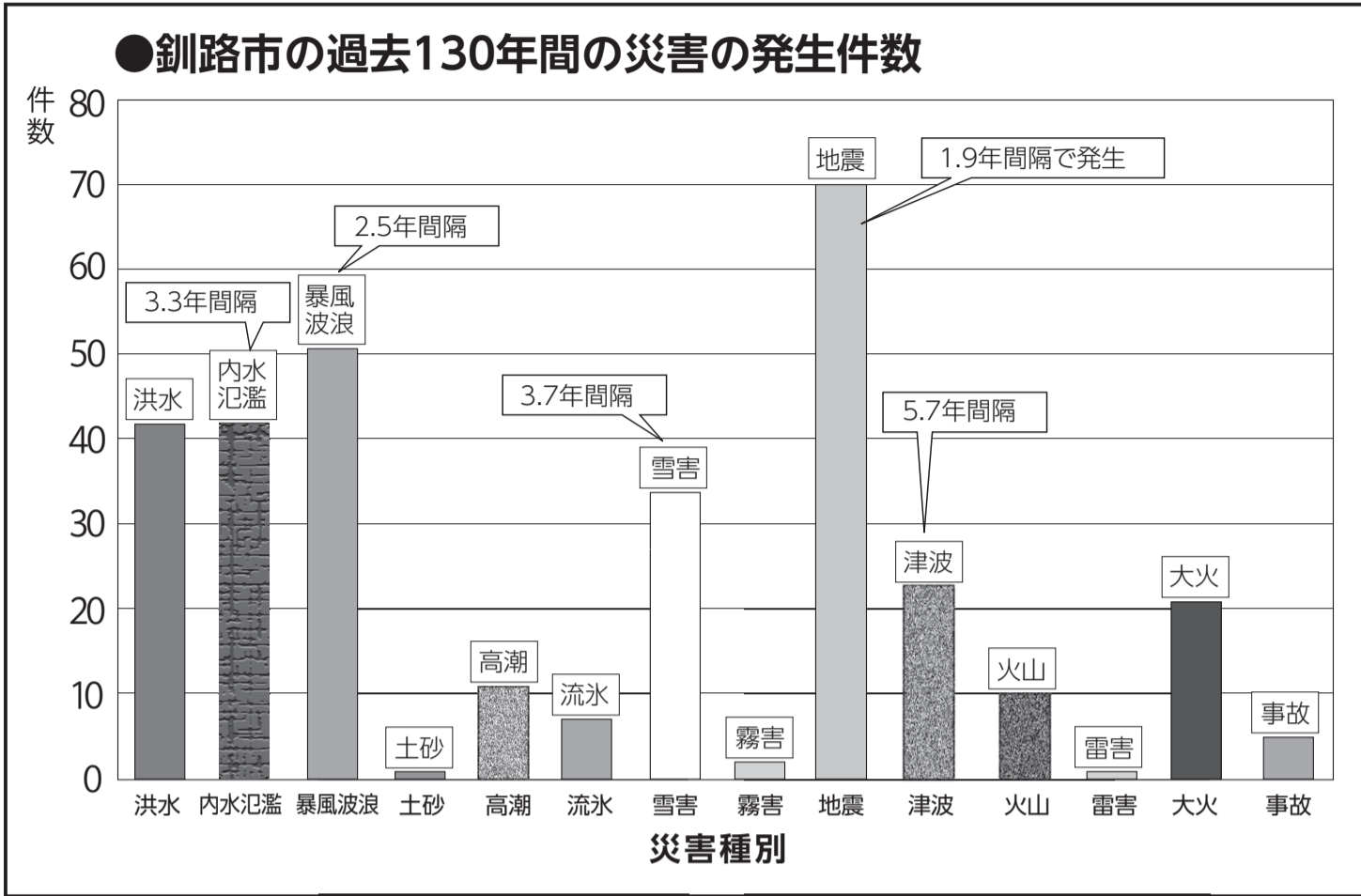


# 2015 防災特集

# 自然災害から身を守る

近年になって多発する豪雨と凶暴化する台風、全国で活発化する火山活動等、災害は忘れた頃にやってくるのではなく、私たちの身の回りに常に存在します。自然災害について、改めて考えてみましょう。

問合せ 市役所防災危機管理課 (☎31-4207)



## 頻発、激甚化する自然災害

自然災害とは、台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害、地震、津波・高潮、火山噴火などの自然現象が直接の原因となって起こる災害のことをいいます。

日本は地勢上、地形、地質、気象などの自然的条件から、自然災害が発生しやすく、毎年、大きな被害が発生して、多くの尊い人命も失われています。

近年では、記録的な大雨による冠水や洪水、土砂災害、竜巻、雷、台風などの気象災害が多発し、今年も全国各地で被害をもたらしました。

釧路地方では、これまで多くても1時間に30〜50ミリメートルの豪雨が最大でしたが、現在では、日本のどこにでも1時間に100ミリメートル以上の豪雨が降る可能性があるとされています。今後は、経験したことのない強い雨や暴風が発生する可能性が高く、洪水や土砂災害など風水害に対してこれまで以上に注意が必要です。

釧路地方では7月27日に雌阿寒岳噴火レベルが1から2へ引き上げられ、火山災害への備えも必要となっています。

また、常日頃から地震や津波に対しても、警戒が必要です。災害から身を守るために、正しい災害の知識を持ち災害に備えていくことが重要です。

## 防災の第一歩は

自然災害から身を守るためには、自分の住んでいる地域、職場や学校のある場所など、普段いる場所の地形や災害の歴史を知ることが必要です。

自然災害による被害の状況は、地形的な条件によって大きく異なり、風水害では地形の状況や降った雨の流れ先、地震災害で

は地盤状況や人工的な埋め立ての有無、津波災害では土地の標高や海岸の地形等が大きく関わってきます。それぞれの地域の過去の災害の状況を知り、教訓として生かしていくことが大切です。

釧路でも過去から現代まで数多くの自然災害が発生しており、明治時代から残る災害の記録から、過去の災害や被害の状況を知ることができます。

## 日常生活の中で意識したい「防災」

普段から防災を意識するために、家庭や職場、学校で防災会議を開き、災害に備えるための話し合いをしてみませんか？

家族が離ればなれのときの安否確認はどのようにするのか。連絡方法や、集合場所をどうするか。住んでいる場所だけでなく、仕事場、学校のある地域の避難場所を知っているか。通勤、通学路での安全確保など話し合う内容はたくさんあります。

また、こうして家族や仲間と、災害が起きる状況を具体的にイメージすることで、さまざまな情報を共有することができます。

## 身近な防災体験施設や、情報入手の手段を活用しよう

市では、津波・洪水、火山、土砂災害のハザードマップおよび地震防災マップを作成しています。ハザードマップは、災害予測図ともいわれ、自然災害による被害を予測し、その被害の影響や範囲を地図上に示しています。

マップ上には、予測される災害の発生場所や被害の範囲・規模、避難経路や場所等の情報を掲載していますので、活用してください。

また、市民防災センターには、「防災マ



▲東日本大震災では市内中心部にも津波被害がありました



▲近年は大雨による災害が多発しています



▲2008年11月に噴火した雌阿寒岳